人事案件に対する反対討論（要旨）

2003年6月議会

2003/7/8

ただいま人事案件が提案されました。このうち私は、公安委員会委員の島津修久（のぶひさ）氏、監査委員の小島政利（まさとし）氏、人事委員会委員の松本浩二氏、そして収用委員会委員の岡元杉夫氏の選任に反対し、討論いたします。

公安委員は、言うまでもなく都道府県警察を管理する役割を担っております。「警察法」第39条には「そのうち2人以上が同一の政党に所属することとなってはならない」とあり、これは、警察行政が民主的、公平、公正に、不偏不党の立場に立って行われなければならないからであります。だからこそ、公安委員は、政治的中立を保障されるべきであります。島津修久は、島津商事、島津興業の取締役会長であり、今回の提案は、前回と同様、3名のうち2名までが企業の代表取締役であることから、賛成できないところであります。

また、監査委員に小島政利氏、人事委員会委員に松本浩二氏、収用委員会委員に岡元杉夫氏が選任されようとしています。これらの方たちは、いずれも県幹部のOBであります。監査委員は、行政を真に客観的な立場から県財政を厳しくチェックできる人物を選任すべきであります。小島氏は、この3月まで県の幹部であった人であり、この監査委員の役割からみて、適当であるとは思えません。人事委員は、人事行政に関する調査研究、企画立案、勧告等を行い、職員の競争試験及び選考を実施し、並びに職員の勤務条件に関する措置の要求及び職員に対する不利益処分を審査し、並びにこれについて必要な措置を講ずる機関です。また、収用委員は、法律、経済、または行政に関してすぐれた経験と知識を有し、公共の福祉に関し、公正な判断をすることが求められており、行政の利益優先に対処することを厳に戒めなければならないところです。

こうした観点から見たときに、長年県の幹部として自民党県政を支えてきた県幹部OBの起用がこれらの委員として適切であるとは思えません。以上の理由から、先の4名の選任に反対することを表明し、討論いたします。